

結晶

校長 工藤 誠志

今冬は暖冬と言われています。たくさん雪が降ったと感じていても、数日すると雪の姿が消えてしまうことが多いので、なおさら暖冬を意識してしまいます。それでも今週の最低気温がマイナス8℃と報道されると、やっぱり真冬、1月なのだと納得してしまいます。

私は、12月の休日に、空を見上げて、雪が降りてくる様子を眺めて「きれいだなぁ」とつぶやいていました。氷の結晶の美しさに魅せられたのです。そこで雪の百科事典を取り出して調べてみると、雪の結晶とはこれ程種類があったのかと驚かされました。おなじみの星型の他に、扇型の角板、針型、つづみ型、砲弾型、シダ状星型、中空の角柱、三角形、十二枝、不定型・・・等々。綺麗な結晶がたくさんあります。そして、冬、辺り一面を銀世界に変える雪は、空の雲が作る、氷の造形だということが分かりました。

静かに舞い降りる雪をよく観察すると、花のような形をした雪の結晶が見られることがあります。6枚の花びらのような形は、水の分子が結合してできたものです。その姿は千差万別で、一つとして同じ形はないのだそうです。雪の結晶は、雲の中で生まれた小さな氷の粒が地表に落ちるまでのわずかな間に、様々に形を変えた姿なのです。やがて、六角の柱の端が広がり始めます。六方向に伸びていき、花びらのような形になるのだそうです。



雪の結晶の姿や成長を知って、本校の子供たちのように思ったのです。姿や成長の度合いの違いは、子供たちの個性のようです。雪の結晶が、水や気温などの環境によって成長します。本校の子供たちも様々な学習の経験や学びによって成長していく姿と同じように感じたのです。

冬休みが終わり1月15日に子供たちに会えるのを楽しみにしていました。元気な挨拶をしながら学校に登校してきた子供たちは、一まわり大きく成長して見えました。特に、どの子供をみても一気に背丈が伸びています。自家用車で送迎されてきたある子供は、お父さんやお母さんの背丈に今にも届きそうです。

全校集会後に、各教室で子供たちの成長をさらに感じる事ができました。挨拶が上手にできるようになった子供にたくさん会いました。中でも休み前まではお辞儀だけの挨拶の子供が、私の前で気をつけの姿勢で、「お～～～はようございます」と言ったら、すぐにお辞儀をして満面の笑顔です。うれしかったです。また、担任が「椅子を持ってきてください」と声を掛けると、その子供は一端立ち止まって考えて振り返り、自分の机の場所まで移動して椅子を抱えて朝の会の場所まで一人で移動してきました。すごい！すごい！そして、「先生、おたより取りに来ました。ください。」と話した中学部の生徒を見て、私は生徒の顔を再度確認し直しました。なかなか学校に入って来られなかった生徒が、クラスの友達と一緒に教室にいて活動しているのです。この姿に感動しました。

本校は、引き続き一歩一歩確かな成果につながるよう指導を進めていきます。子供たちはどんな結晶に変化、成長するのでしょうか？とても楽しみです。保護者の皆様や関係施設の方々の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

